

宮部氏 デマにデマ重ね

被差別部落出身者を中傷

差別禁止法を求めて

時代の正体

部落差別を執拗に続ける

レイシストで、川崎市長選(26日投開票)に立候補している宮部龍彦氏(46)がうそを重ね、部落解放同盟川崎支部長は「えせ同和」だというヘイトデマをさらに拡散させている。差別の被害者をどこまでも攻撃する卑劣さは底なし。

神奈川新聞社は22日、宮部氏が選挙演説でハイストーリーをまき散らしていると批判する記事を掲載。支部長は「部落とは関係ない」という虚構を前提にして、川崎市が同支部や全日本同和会川崎支部に委託している人権・同和対策生活相談事業を「市ぐるみのえせ同和行為」とねじ曲げ、被差別部落出身者や当事者団体がいかがわしい存在であるかのようにおどしめていると報じた。

富部氏は同日夜、ユーチューブの配信動画で「証拠

がある」と言い張り、デマを重ねた。「支部長の家にピンポンして話を聞いた。(支部長の息子が)いろいろぶつちやけてくれた『部落とは関係ないんだ』と『父は東京出身です』と。川崎にその名字の部落民はない。全く関係ない。えせ同和だ。本人も否定できない。本人に聞いたのだから」と語った。

富部氏が自宅に押しかけたのは2017年。当時の支部長の息子で、応対した現文部長は神奈川新聞社の取材に対し、「富部氏ははなから相談活動がおかしいと言っていた。私が『部落とは関係ない』と答えたことは関係ない」と答えたことはない。当時父は存命で、父を怒らせる事実ではないことを言うはずもない」と否定した。

富部氏は「部落差別は存在せず、被害の訴えは利権のため」というデマを公言する。部落の地名リストの出版を企て、支部長を含む当事者から起された訴訟では「差別されない権利」を侵害したと認定する判決が最高裁で確定している。

おことわり

川崎市長

選に立候補している宮部龍彦氏に、ついでに、経歴や出馬に著しい差別的言動があり、差別が拡散する恐れがあるため、異なる扱いとしております。

立ち上げ、初代支部長となつたという。

神奈川新聞社が23日、宮部氏に現支部長との17年のやりとりを確かめたところ、「父は浅草出身」と聞いた。じゃあ部落と関係ないじゃないかと言つた

ログでは「話すには支障がある」と断られた」とだけ記し、「部落とは関係ない」と答えたとは書いていない。

(石橋 学)